

## 教育について考えていること

青 山 永 久

教員生活を二〇年ちかく続けていると、教育について多少なりとも考えていること、言いたいことがでてくるものである。それらを思いつくままに書いてみた。

### (一)

学校でわれわれ教師が生徒に教えていることはそれなりに認められた歴史のある知の体系であるといえる。わたしは高校で倫理を教えているが、その内容はアリストテレスやプラトンの考えたこと、つまり先哲の教えというものである。こういったものに対する生徒の関心は正直いってだんだん薄れていっているように思える。学校でわれわれが教えようとしていることと生徒の関心は相当にずれているようである。今の生徒は学校外でより面白い情報を得ることが可能になってきている。学校で教師から受け取る情報はそれほど刺激的でなく、面白いとはとても思えないのである。

このような生徒達にどうやって面白いと思わせるか、さまざまな工夫が必要であろう。だがそれには限界がある。たとえば物理や哲学について考えてみよう。それらの学問はけつきよくは抽象化を求めめる。いくつかの数式や難解な専門用語がどうしてもでてくる。具象から抽象へ、逆に抽象から具象へ、これがむりなくできるようになることが人間として好ましいのだが、多くテレビなどから情報を得る今の生徒たちにはそれは難しいことのように思える。だから授業で教わることをただ覚えようとするのである。だがそれがいつそ授業をつまらない、堪え難いものにしていくのである。

### (二)

いまや大多数の生徒や学生にとって五〇分ないしはそれ以上の時間じつと静かに人の話を聞いていることは苦痛以外のなにものもでなくなっている。映画館でじつと静かに映画をみることもできないようなかれらは、実に簡単に人の話を聞こうという姿勢をくずしてしまう。とにかく講義は退屈、まったく興味はもてないというわけだ。

わたしが思うに、昔のように講義形式の授業が成り立つのは上位二五%ぐらいの学校ではないだろうか。また高校ぐらいになると、ある程度予習をして（それは授業に関係ある書物で知識を深めるということも含んでいるが）授業にのぞむべきだが、アルバイトや遊びで忙しい高校生にそれを期待するのは無理というものである。

### (三)

今の若者は本を読まないという。一般的にはそうだが例外もある。一年間で百冊以上の本を学校の図書館から借りる生徒もいるにはいる。これは素晴らしいことだが、反面三年間の学校生活で一冊も借りることのない生徒もいる。読む生徒と読まない生徒の格差が非常に大きくなってきている。それは簡単にいうと、活字文化がもっていた情報を獲得するうえでの特権的地位が失われたということに興味している。かれらにとっては正直いって本はかつたらしい。恋愛について知るのも、古典的恋愛小説を通してではない。それはユーミン（ちよっと古いか）の歌であったりするわけだ。また一時はやっ

たトレンディドラマというのもある。それらのドラマの主題歌もそういうえばよくヒットしたものである。

はつきり言おう。いまの若者の関心が音楽や映像にかたむいていくことを積極的に評価する者もいるがとんでもないことである。音楽はすぐれて感情に訴える伝達手段であるが、そういうったものの氾濫は人間の思考能力を低下させるだけである。

どんなに時代が変わろうと、一冊の本の情報一枚のフロッピーディスクに収められようと、活字を読むことの重要性は変わらないとわたしは信じる。

#### (四)

面白く、人を引きつけるような話しをするというのはひとつの才能である。だから多くの授業が教師の努力もむなしくつまらないものに終わっているのはやむを得ないだろう。そんなに面白く教えることはできないし、生徒も教師からあまり面白さを期待しない方がよい。授業の面白さは教師の努力と生徒の努力があつてこそ可能なのだ。なんの努力もしないで面白い話を聞こうと思うこと自体が間違っている。

#### (五)

不登校の生徒やまったく授業を聞かない生徒が増大する傾向は、いまの学校教育のあり方が時代に合わなくなつてきていることを示している。

どうしたら問題が少しはよい方向に進むことができるのだろうか。わたしは次のように考える。

まず学校ごとのカリキュラムにもっと幅をもうけるべきである。いまの普通高校のカリキュラムは大学進学希望者向きであつて、高卒資格だけはおきたいと考へている者向きではない。わたし

はその学校の生徒の資質にあわせて、カリキュラムの内容を変えることが必要だと思ふ。

次にもっと幅広い年齢の人が学べるようにした方がよいと思ふ。たとえば、高校を中退してしまつたけれど、二十歳を過ぎてもう一度勉強したくなつたとき、それを實現してあげるシステムが日本には欠けている。チャンスは何度でもある方がよい。

クラスの人数も学校によつては大幅に減らすべきである。今やつと四〇人学級が實現したところであるが、三〇人以下の学校があつても良いのではないかと考へる。手間のかかる、甘やかされた、堪え性のない生徒が増えている現状では、クラスの人数は少なければ少ないほどよい。

最後に学校以外の塾などの教育機関が今以上に積極的な役割を、特に不登校生徒の対策などに果たすことができればよいと思ふ。